第 1.1 版（2026 年 10 月 14 日作成）

国立精神・神経医療研究センター病院で
てんかん外科治療を受けられた方へ

このたび、国立精神・神経医療研究センター病院でてんかん外科治療を受けられた方の診療情報等の一部や、残余検体について、下記の研究に対し提供を行います。この研究では、国が定めた倫理指針に基づき、対象となる方お一人ずつから直接同意をいただくかわりに、利用目的等を含む研究の実施について、情報を公開いたします。

この研究に関して、対象となる方に新たな負担や制限が加わることは一切ございませんが、ご自身の診療情報や残余検体を利用して欲しくない場合は、問い合わせ窓口までご連絡ください。なお、利用してほしくないと申し出られた場合でも、なんら不利益を受けることはございません。

1. 対象となる方

2000 年 1 月 1 日より2026 年 8 月 31 日までの間に、当院脳神経外科でてんかんの外科的治療を受けた方

2. 研究課題名と研究代表者又は研究責任者

研究課題名：焦点てんかんにおける手術検体の神経変性病理所見と神経心理・生体検査所見との関連
研究期間： 2026 年 10 月 23 日 ～ 2029 年 3 月 31 日まで
研究代表者(研究責任者)： 谷口 豪

4. 利用又は提供する試料・情報等と取得方法について

試料：手術検体（脳組織）
（取得方法） てんかん外科手術に伴う診療の一環として切除され保管されていたもの

情報等：年齢・性別・診断名・経過などの臨床情報、頭部 MRI 検査・PET 検査・脳波・神経心理検査等の検査結果
(取得方法) 診療録等から入手

5. 試料・情報の利用目的及び利用方法

難治性てんかん患者さんの切除脳検体（海馬、扁桃体、側頭極）において、リン酸化タウと呼ばれるタンパク質がどの程度蓄積しているかを評価します。その結果と、術前の神経心理検査（認知機能）や生体検査（脳波、MRI、FDG-PET 等）の所見とがどのように関連しているかを明らかにすることを目的としています。本研究により、てんかんに伴う認知機能障害のメカニズムを解明し、将来的な治療法開発の基盤とすることを目指します。

過去のてんかん外科手術によって切除され、当院の臨床検査部に保管されている脳組織（ホルマリン固定）を利用させて頂きます。この保存された手術検体からの薄切標本作製および免疫組織化学染色を実施し、病理学的な評価を行います。電子カルテ等の診療録から抽出した臨床情報と統合し、統計学的な解析を行います。
利用を行う際には、研究計画に従い、診療情報等の個人情報は加工処理を行った上で、対象となる方の氏名や住所などが特定できないよう安全管理措置を講じたうえで取り扱います。

6. 利用又は提供を開始する予定日

研究開始日を予定しています。

7. 問い合わせ窓口

この研究課題の詳細についてお知りになりたい方は、下記問い合わせ担当者までお問い合わせください。

機関名：国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター　病院
所属：てんかん診療部　氏名：谷口 豪
電話番号 ：042-341-9111（内線：3241）
e-mail：gtaniguchi※ncnp.go.jp（「※」を「@」（半角記号）にご変更ください。）